

子供による薬の誤飲を防ぎましょう！



子供が誤飲すると重い中毒症状を
起こす危険性が高い医薬品
(向精神病薬、気管支拡張薬、降圧薬
および 血糖降下薬など)の
ご家庭での保管に十分に注意しましょう。

家庭内での医薬品の保管ポイント

- ✓ 子供の手の届かない、見えにくい所に保管しましょう。
- ✓ 鍵のかかる場所に置く、取り出しにくい容器に入れるなど、対策を講じましょう。

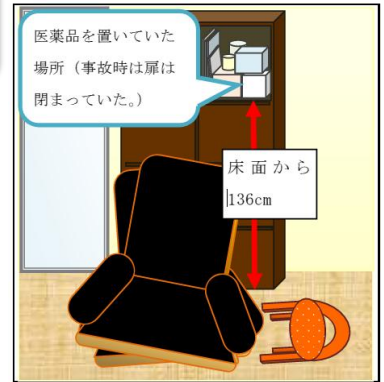


万が一、子供が医薬品を誤飲した場合は、子供の**状態**や**薬の名称、飲んだ量**を確認した上で、**直ちに専門の相談機関に連絡し、必要に応じて医療機関を受診**しましょう。

実 例

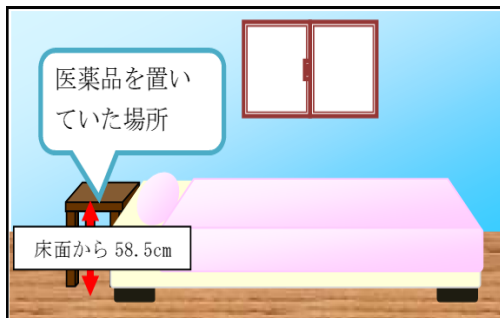
(1)子供が足場を持ってきて手に取った医薬品を誤飲したと推定される事故

親が目を覚ますと、医薬品を保管していた居間の棚の近くに、噛み跡のある PTP 包装が落ちているのを発見した。子供(年齢1歳7か月、身長 79cm)は、大人用の胃炎・胃潰瘍治療薬を4~5錠誤飲していた。この家庭では、子供の目や手の届かない棚(床面から 136cm)に医薬品を保管していたが、子供は座椅子2台と子ども用の椅子を足場にして当該医薬品を手にしたと考えられる。



(2)置き忘れた医薬品を誤飲した事故

親は、子供(年齢2歳5か月、身長 85cm)と一緒に昼寝をしようと考え、自身が寝つきをよくするために普段服用している精神安定剤を3~4錠(PTP包装)携行し子供と一緒に寝室へ入った。親はこれまで寝室に医薬品を持ち込んだことはなかったが、事故発生当日は、当該医薬品を1錠服用し、残りの2~3錠を同室のベッドのサイドテーブルの上に置いたまま、子どもより先に寝てしまった。子供は、サイドテーブル上の医薬品を手に取り誤飲した。



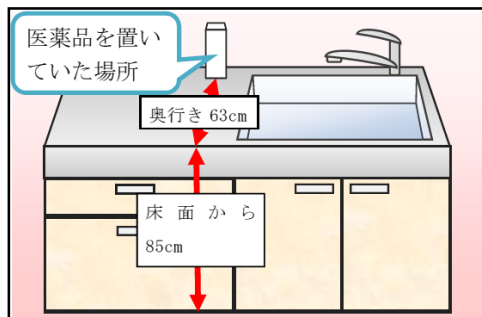
(3)兄の治療中に弟が医薬品を誤飲した事故

親が居間の床の上に薬箱を置いて子供(兄)の怪我の手当てをしていたとき、子供(弟、年齢2歳6か月、身長 80cm)が薬箱から乗物酔防止薬を取り出し、5錠程度誤飲した。誤飲した医薬品は、弟が数日前まで食べていたタブレット菓子と外観が類似していた。



(4)甘い味のするシロップ薬を多量に誤飲した事故

両親が見ていない間に、子供(弟、年齢2歳10か月、身長 92cm)が台所で瓶に入ったシロップ薬を1本全量誤飲した。誤飲した医薬品は、台所の調理台の奥に、一時的に置いていた。弟の身長では手の届かない場所に医薬品があったため、弟は、踏み台を使用したか、兄と協力して手にした可能性がある。誤飲したのは、いちご風味のシロップ薬であり、甘くて飲みやすい特徴を有していた。



詳しくは、消費者庁ホームページ
(http://www.caa.go.jp/safety/pdf/141219kouhyou_2.pdf)